

地元の防府競輪場に通い、優勝を目指し日々練習に励む田口さん



学校の進路希望調査で迷っていた高校2年生のある日、ふと父が言ったのは「女子競輪、始まるらしいよ」これまで意識したことなかった競輪との出会いでした。軽い気持ちで始めたつもりがすぐに自転車にのめり込み、毎朝4時から父と一緒に猛練習。「1日

学校で迷った自分に気がきました」学校の進路希望調査で迷っていた高校2年生のある日、ふと父が言ったのは「女子競輪、始まるらしいよ」これまで意識したことなかった競輪との出会いでした。軽い気持ちで始めたつもりがすぐに自転車にのめり込み、毎朝4時から父と一緒に猛練習。「1日



競輪選手だった父は家で優しく、休日にはよく遊んでもらったという

「努力したことが確実に結果につながるから頑張れるんです」小柄な体で力強く自転車をこぐのは、2児の母として子育てに奮闘しながら、競輪選手として活躍する田口梓乃さんです。

競輪選手を父に持つ田口さんの子供時代は意外にも競輪とは無縁で、夢中になったものは3歳の時に始めたクラシックバレエ。練習を重ねて上達することや発表会で踊ることは楽しく、学校が終わるとすぐにレッスンに通う毎日でした。しかし、次第に周囲の友達とのギャップを感じ「普通の生活がしてみたい」と中学2年生でクラシックバレエを辞めることに決めます。「や」と学生生活を楽しめてうれしかった。でもあんなに打ち込んでいたものがない。心にはぽっかり穴が開いてしまった自分に気がきました

100kmのノルマがあっても、きつと感じるより楽しいという気持ちの方が大きかったですね」競輪学校の入学試験に合格した田口さんは1年間の訓練を終え、2012年、19歳の時にプロ競輪選手としてデビュー。その後、競輪選手である夫と結婚し、夫婦で競技を続ける田口さんは24歳の時に第一子を出産します。選手として復帰したい、でも子供と離れたくないという気持ちで葛藤する田口さんに母が掛けた言葉は「やるだけやってみて駄目だったら辞めればいいよ。サポートはするから」その言葉に背中を押され、当時では前例のなかったママ選手として復帰を果たします。



東京のサマースクールにも参加し、クラシックバレエに打ち込んでいた



1日でも長く続けたいと思えるものに出会いました

Vol.147

田口 梓乃^しさん
(周東町在住)

1992年、美和町出身。日本競輪学校102期生。夫も競輪選手で4歳と3歳の子供を育てながら日々練習に励んでいる。試合の6時間前から何も食べないことがルーティン。

